

墨田区菊川周辺

富洋設計株式会社の富高と申します。当社は現在、墨田区菊川、都営地下鉄新宿線の菊川駅の近くにあります。古くは本所・深川と呼ばれた一帯の一角で、時代小説や時代劇などではよく耳にする地区です。この辺りのことを書いて行こうと思いますが、会社の周りをちょっと歩いた程度の紀行でまた、時代小説、時代劇に興味の無い方には大変申し訳ありませんが、ご容赦のほどを。

昔の地図を確認すると当社は、本所と深川の境辺りで本所に掛かっているかな、という所ようです。下の“本所深川絵図”では赤丸印のあたりです。時代小説にも“本所菊川”などという表現も出てきます。しかし、地名の名残としては、深川七中や、深川神明宮といった深川由来の施設があったり、国会図書館の資料でも位置的には“深川絵図”の中に含まれていたり、深川の色が濃いような気がします。(現在の住所では、本所は、JR両国駅の北側あたり、深川は地下鉄東西線の門前仲町のあたりで、どちらも当社からは少し離れています。)

この地域には、一般の江戸市民に加え、田安家や一橋家といった徳川ゆかりの大名の下屋敷、討ち入りで有名な本所松阪町吉良邸(絵図には出ていません



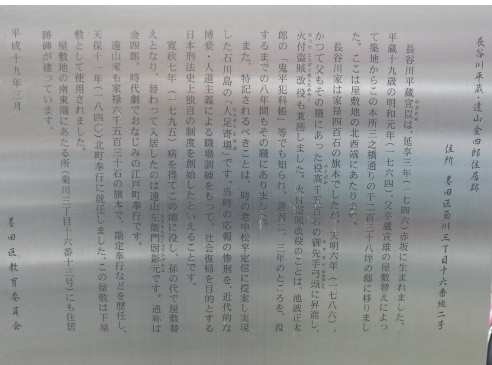
が)その他、旗本の屋敷が多くあった地域でもあります。

昔から旗本八万旗などと言われていますが、数ある旗本の中でも、当社の付近には飛びきり有名な2人の旗本が数百年前に実際に住んでいたようです。1人は“遠山の金さん”こと遠山金四郎、もう一人は、“鬼平”こと長谷川平蔵です。この2人はほぼ同じ時期(長谷川平蔵が50才くらい年上)にほぼ同じ所に住んでいたらしく、都営地下鉄の菊川駅を出たところに、この2人の“屋敷跡”という看板を確認できます(残念ながら、添付の本所深川絵図では確認出来ませんでした)。この2人の住んでいた屋敷は1200坪以上もあったようで、写真-1は屋敷跡の東の端で、菊川駅A1出口を出て千葉方面に100mくらい行

った辺り、写真－2は屋敷跡の北西の端辺りになるようで、A3出口を出てすぐの所にあります。



屋敷跡(写真－1)



屋敷跡(写真－2)

鬼平に関しては、池波正太郎の“鬼平犯科帳”という小説で有名ですが、会社の近所に“鬼平通り”というのぼりが出ていたり、小説の中に出てくる“三ツ目通り”という通り(現在は都営地下鉄菊川駅の前を南北に通っている都道319号線)は現在の地図にも表示されています。

また、墨田区役所に行くのに、会社の近所のバス停から区営バスに乗るのですが、乗ってすぐに、“火付け盗賊改め方長谷川平蔵屋敷跡・・・云々”のアナウンスが流れ、初めて乗ったときにはびっくりしたものです。

同じくバスに乗っていると、“鬼平犯科帳”の中によく登場する、弥勒寺(本所深川絵図の水色ラインの上辺り)、春慶寺といったお寺も実在することがわかります。この2つのお寺に関しては、“弥勒寺前”、“春慶寺前”という区営バスのバス停があります。



現在の春慶寺辺り

特に、春慶寺前バス停の別名は、“東京スカイツリータウン前”で、現在では東京を代表する観光名所の一つとしてにぎわっているあたりのようです。

時代劇では、鬼平も遠山の金さんもどちらも有名ですが、小説の影響の差なのか、鬼平の痕跡は、あちこちで見聞き出来るのに対し、遠山の金さんは、屋敷跡以外の痕跡が見

聞きできないのは少し残念です。

最後に、この辺りは、以前は、水路や掘り割りが多く走っていたらしく、池波正太郎によると、“東洋のベニス”などと呼ばれるほど、美しく、水の豊かな地域であったようです。その名残というか、周辺にも、小名木川、豎川、大横川、五間堀(本所深川絵図の水色のラインで現在は道路となっている)といった川や水路があります。水コンサルとしては少し不思議な縁があるようにも思えます。

会社の周りは、マンションや小規模な工場などが多く、飲食店等ももほとんど無いような少し落ち着き過ぎている地区ですが、3年も通っていると、慣れてしまい、時代小説・鬼平ファンとしては、なかなか良いところだと思っています。

追記：本所深川絵図は [国会図書館デジタルコレクション](#)より

興味のある方はここにアクセスするともう少しきれいな絵が見れます